

津久見市津波ハザードマップ

赤崎・四浦一区

津波浸水予測図

今回、市内全域（八戸地区除く）の津久見市津波ハザードマップ（津波浸水予測図）を作成しました。

平成24年8月に国から現時点での最新の科学的知見に基づく、「発生しうる最大クラスの南海トラフ巨大地震」の予測が公表され、想定データのケース11を基に大分県の有識者会議が大分県津波浸水予測調査を行い、津久見市では今回このような津波浸水域が示されました。

これはあくまでも予測であり、すばやく赤色実線の海拔10m以上地域の津波一時避難所へ避難して下さい。

平成25年4月作製

わが家の避難場所は、

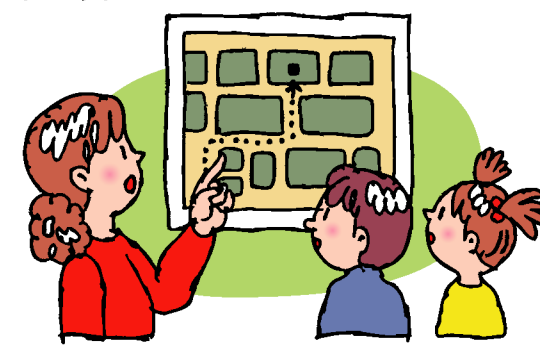
■指定避難所 近くの避難所を確認しましょう

地区名	一時避難所			海拔(m)	収容避難所	収容人員(人)	TEL
	風水害	地震	津波				
赤崎区	赤崎公民館 2階	付近の空き地	おかみ	H=11	赤崎公民館	50	
			オパネ	H=12	日代小学校	570	
			屋敷跡	H=18	日代中学校	500	
			地蔵奥(墓地)	H=11	日代中学校体育館	220	
四浦一区	仙水公民館 2階	仙水小学校グラウンド	鳩浦河内奥	H=10	仙水小学校	250	
	仙水小学校 2階		鳩浦こらみち	H=11	漁村センター	220	
	漁村センター 2階		鳩浦だばら(2ヶ所)	H=11			
	鳩浦地区		鳩浦こら	H=12			
	荒代地区		荒代開	H=10			
			荒代十郎(2ヶ所)	H=11			
			荒代八重石	H=10			
		荒代中道(江ノ浦越)	H=11				

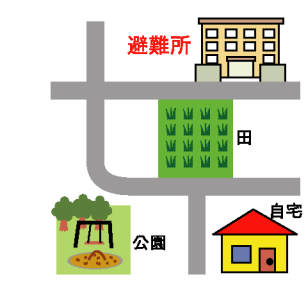
避難ルートを家族みんなで確認しておこう!

■オリジナルマップの作成

家族みんなで避難所まで歩いてみましょう。実際に歩いてみて、安全で避難しやすい経路を探してあなたの経路図をこの地図に書き込んでみましょう。



自分の地区の避難所はどこなのか、そこへ安全に行くためにはどう行けばいいのかなを確認しておきましょう。



地図の見方

地形等	記号	説明
行政界、地区界	---	
公共施設・主要施設	□	
海抜10m以上地域	〇	
消防格納庫	消	
風水害一時避難所	〇	大雨や台風などによる河川等の氾濫や浸水時に、避難するところ
地震一時避難所	〇	地震が発生した時に避難するところ
津波一時避難所	〇	津波が発生した時に避難するところ
津波避難ビル(施設)	〇	津波が発生した時に避難するビル(施設)
市指定収容避難所	〇	市の地域防災計画により指定された収容避難所
津波浸水	色	
深	色	
津波	色	
浸水	色	
深	色	

津波避難三原則

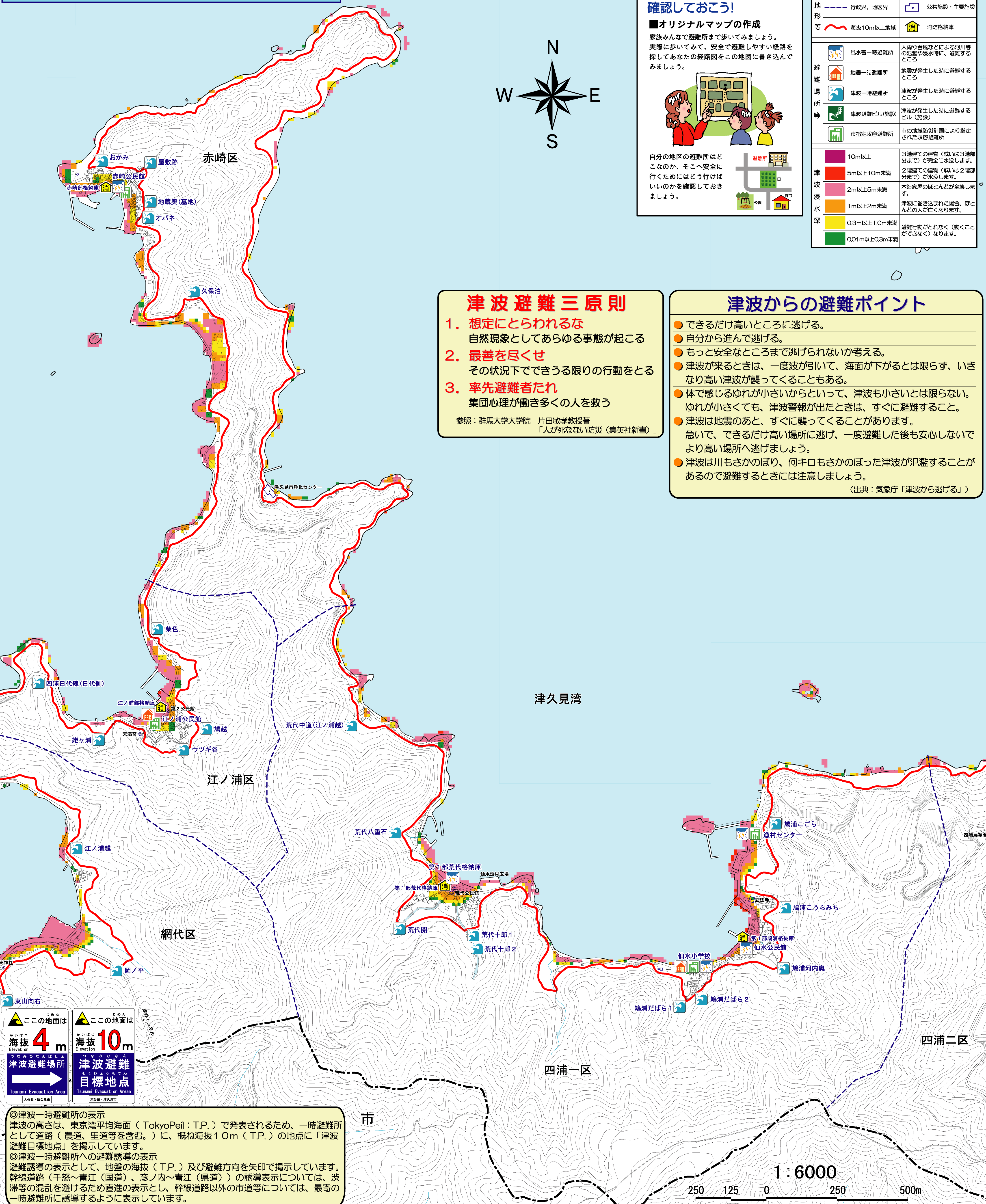
- 1. 想定にとらわれるな**
自然現象としてあらゆる事態が起こる
- 2. 最善を尽くせ**
その状況下でできる限りの行動をとる
- 3. 率先避難者たれ**
集団心理が働き多くの人を救う

参照：群馬大学大学院 片田敏孝教授著 「人が死なない防災（集英社新書）」

津波からの避難ポイント

- できるだけ高いところに逃げる。
- 自分から進んで逃げる。
- もっと安全なところまで逃げられないか考える。
- 津波が来るときは、一度波が引いて、海面が下がるとは限らず、いきなり高い津波が襲ってくることもある。
- 体で感じるゆれが小さいからといって、津波も小さいとは限らない。ゆれが小さくても、津波警報が出たときは、すぐに避難すること。
- 津波は地震のあと、すぐに襲ってくる場合があります。急いで、できるだけ高い場所に逃げ、一度避難した後も安心しないでより高い場所へ逃げましょう。
- 津波は川もさかのぼり、何キロもさかのぼった津波が氾濫することがあるので避難するときには注意しましょう。

(出典：気象庁「津波から逃げる」)



▲この地面は 海抜4m

▲この地面は 海抜10m

津波避難場所

津波避難目標地点

◎津波一時避難所の表示
津波の高さは、東京湾平均海面（TokyoPeil：T.P.）で発表されるため、一時避難所として道路（農道、里道等を含む。）に、概ね海抜10m（T.P.）の地点に「津波避難目標地点」を標示しています。

◎津波一時避難所への避難誘導の表示
避難誘導の表示として、地盤の海拔（T.P.）及び避難方向を矢印で標示しています。幹線道路（千怒～青江（国道）、彦ノ内～青江（県道））の誘導表示については、渋滞等の混乱を避けるため直進の表示とし、幹線道路以外の市道等については、最寄りの一時避難所に誘導するように表示しています。

